

三条別院のご案内

三条別院に想う

「三条別院に想う」と言うことで原稿依頼を受けましたが、私の筆不精も省みず、門徒会に想うことで記してみたいと思います。

私が二十三組の門徒会の大役をお受けし、併せて三条教区の門徒会員として関わりを持つことになりましたのが、去る平成十五年でありました。教区では役員の変更があり、私が三条教区の常任委員の一人に任命されました。

今、私が依頼の原稿を手に行っている今日の七月十三日、九州の熊本、大分では死亡者が出る記録的な集中豪雨による災害が発生しておりますが、今日の七月十三日と八年前の平成十六年七月十三日の三条を中心とするあの記録的な集中豪雨による大災害の発生と重ね合わせているところでもあります。

当時三条教区では直ちに常任委員を中心とする教区災害対策委員会を設置し、正確な情報収集と被害調査に入るなど災害復興、支援、義援金の対策に取り組んだところではありますが、不幸にも災害対策委員会の解散も待たず、同年の十月二十三日、新潟県中越地震が発生、天災に次ぐ天災のダブル災害で死亡者四十九人にのぼ

る未曾有の大惨事に見舞われましたことを、改めて記すまでもありませんが、随分長期に亘って災害対策委員会が持たれ、新発田・二条間を往復させていたできました。

さて、三期九ヶ年に亘るご縁をいただいた二十三組門徒会に少し触れてみたいと思います。平成十五年、諸々の経緯を踏まえたとは言え、二十三組組会三十八寺院の、広域にわたる四地区を抱える二十三組門徒会の会長の重責を、軽々しく我が身の無知蒙昧を省みずお受けしたことを恥じたものであります。それだけに門徒会の活性化の推進に当たって頭を抱えたものであります。

ちなみに二十三組門徒会は二十三組組会二十八寺院の加入による組織で、主に各寺院総代の方々の加入による会となっております。従って高齢者が多く、在任中における健康上のトラブルは少なくありません。加えて広域にわたる会運営であるため、会員相互の連携強化など、疎通による多くの課題に直面しておりました。幸いにも二十三組三十八寺院に精通される経験豊かな金巻さん（組推進員連絡協議会会長）を私の補佐役（副会長）にお願い出来たことにより門徒会の効率化が図られ、会員相互の連携を密にすることが出来たわけでありました。又二十三組組会には常に門徒会運営を始め、事業実施に当ってご指導、ご支援をいただいで来たところでありましたが、さらに組門徒会の目的達成の実をあげるには二十三組三十八寺院のご理解によ

る会員加入のご協力が不可欠でありますので、お願い申し上げます。

最後になりますが、私は既に後期高齢者の仲間入りしております。高齢化と自らの年齢と、進む体力の衰えを自覚しながら、今春二月真宗本廟において得度式を受け、三宝に帰依し、僧伽の一人となりました。私の「菩薩」への導きは、二十三組門徒会の中から生まれたものであり、同信、同期、同行で得た私の大切な機縁によるものであります。新しい第一歩、門徒としてさらに教法を聞信し、教学の研鑽に努める決意であります。各位のご指導を願って稿とします。

合掌
(第二十三組長願寺門徒 相澤佐喜男 氏)

○次回の「三条別院に想う」は、

富樫 章雄 氏(第十七組妙音寺住職)より

ご執筆いただきます

■朝の人生講座・夏の御文拝読

本年も左記のとおり朝の人生講座・夏の御文を開催いたします。

清々しい朝のひと時を仏法に触れながら三条別院で過ごしてみませんか。

◎人生講座終了後、簡単な朝食をお配りいたします。

◇日 時 八月二十四日(金)～二十七日(月)
 午前六時 晨朝 夏の御文拝読
 午前六時三十分 人生講座
 詳細は別紙案内チラシを御覧ください。

■御命日(二十八日)の集い

宗祖親鸞聖人の御命日であります毎月二十八日に、「御命日の集い」を本堂にて、日中法要と法話、その後、座談会の場を開いております。どなたでもお参りいただけます。皆様のご参詣をお待ち申し上げます。

なお、前日(二十七日)はお速夜法要を、午後一時三十分よりお勤めをしております。

【八月二十八日(火)】
 午前十時 お勤め(御命日 日中法要)
 文類偈 行四句目下

念仏讃 淘五
 和讃 回口 次第六首
 回向 願以此功德

◎今月の法話講師

村山 まみ 氏 (眞空学院第一期卒業生)

◇今後の講師一覧

九月 直江 弘憲氏(第十八組 長願寺)
 十月 井上 知法氏(第十三組 願性寺)
 十一月 高田 正人氏(第二十組 西養寺)
 十二月 北島 栄誠氏(第十一組 長福寺)

■定例法話会の案内

毎月十三日には、「両度の命日」と呼ばれてい

る前門首のご命日です。また、蓮如上人も御文の中で、この「両度の命日」についてお書きになられています。(四帖目十二通)

三条別院の一番古い建造物である旧御堂で仏法に触れるひと時を味わいませんか。皆様、お気軽にお越しください。

◇日 時 毎月十三日 ※八月、一月は除く
 午後一時三十分より(二時間程度)

◇場 所 三条別院 旧御堂

八月 休会
 九月～十二月

北原 了義 氏(第十一組 西照寺)



【5月～7月の講師を務められた赤沼義昭氏(13組西方寺)】

■Facebook 講習会の案内

ソーシャル・ネットワーク・サービス(SN)が社会的な潮流になっている現在、新しい「人との繋がり方」が生まれてきています。その代表ともいえるFacebookについて学ぶ講習会を開催いたします。

◇日 時 九月七日(金)

①午後の部 一五時～一七時
 ②夜の部 一八時～二〇時

詳細は別紙案内チラシを御覧ください。

■音楽法要における女性僧侶による助音出仕・習礼について

現代社会におきましては男女共同参画が課題となっております、当別院でも女性が出仕しやすいような環境づくりに努めております。本年も十一月五日から八日まで厳修される別院報恩講の音楽法要にて、昨年同様に女性僧侶の皆様に出仕をお願いしたいと存じます。詳細は別送の案内をご確認ください。

◇日 時 十一月五日(月)
 法 要 十一月五日(月)

習 礼 午前十一時より 三条別院本堂にて
 九月五日(水)、九月十一日(火)
 九月十八日(火)、九月二十六日(水)
 十月四日(木)、十月十九日(金)
 いずれも午後三時より旧御堂にて

詳細は別送の案内をご確認ください。



【2011年お取り越し報恩講 音楽法要の様子】

■三条別院有志の会について

三条別院では「三条別院有志の会」という集いを持ち、法話や座談会(茶話会)など、近隣

の方をはじめ、有縁の方にお集りいただきありがとうございます。

現在十余名の有志の皆様によって活動しておりますが、「三條別院有志の会」では、より多くの方に「ご参加賜りたく、新たな参加者を募っております。お気軽にどなた様でも「ご来院ください」です。お気軽にご案内申し上げます。お問い合わせは三條別院まで。

■三條別院巡回について

かつて三條別院の御影をお迎えし、各「ご門徒」のお宅で「聞法会」が頻繁に行われておりました。しかし、時代の流れや、世代の交代で今では数えるほどしか行われていません。

「ご門徒」の皆様をはじめ有縁の方にご案内いただき、三條別院巡回がより多くの方々のお念仏をいただく「ご縁」になりますことを、願っております。

※巡回の曜日・時間等はできるかぎり「ご都合」に合わせてまいりますので、お気軽にご相談させていただきます。

■別院奉仕研修について

先達の篤き御懇念によって護持されてきた三條別院にお越しいただき、その歴史に触れていただくとともに、現代の様々な問題を抱える私たちが、真宗門徒として親鸞聖人のみ教えに出会う、そのような奉仕研修会を開いてみませんか。

ともに語り合い、人間として生きる意味を尋ねていく場となればと考えております。

○日程及び内容について、「ご要望等」ございましたら「ご相談」承ります。

○奉仕研修会に参加いただく方（団体）の、冥加金は左記のとおりです。

◎冥加金

- ・日帰り 一、五〇〇円
 - ・一泊二日 二、五〇〇円
- ◎食事代（昼・夕食は業者発注のため）
- ・朝食代 五〇〇円
 - ・昼食代 一、〇〇〇円程度
 - ・夕食代 一、三〇〇円程度

■新任職員の紹介

六月より、渡辺正志（第二十四組正念寺）が非常勤嘱託として勤務することになりました。列座業務を中心に、別院の法務に携わっていくこととなりますので、宜しくお願い申し上げます。

■三條別院非常勤嘱託募集について

全寺院に既に案内させていただきました非常勤嘱託を、引き続き募集いたします。詳細・履歴書につきましては、当別院まで「ご連絡」ください。

- 一、募集人数 若干人
- 二、勤務先 真宗大谷派三條別院
- 三、職種 列座業務
- 四、勤務時間 月十五日程度 平常午前六時から八時まで 諸法要及び土日祝日に出勤の場合

（月一回程度）は、その限りではない。
五、応募資格 ①真宗大谷派の僧侶 ②儀式・声明を学ぶ意欲がある者
六、その他 定員になり次第、募集を締め切らせていただきます。

◇◇編集後記◇◇

六月二十日から七月十九日までの一カ月間、本山での列座研修を受けさせていただきました。一ヶ月の間、別院を空け、研修を受けさせていただきましたこと、大変ありがとうございました。先輩二人からは事前に様々な情報（主に辛い情報）を聞いて臨んだ研修でした。実際、研修は辛いものでした。しかし、辛くだけでなく実り多き研修だったと感じています。

列座研修では、掃除や荘厳から所作まで、本堂でのお給仕を全般に学ばせて頂くのですが、技術や知識的なところは勿論、なにより成果として自分に残ったものは本堂に入る際の気持ちかと思えます。

「内陣での歩き方一つ取っても、その気持ちが姿となって表れるものである。」

これは研修中に本山の参衆の方から頂いた言葉ですが、その「気持ち」というものは御崇敬の念であり、一期一会の法要を勤める者の覚悟でもあると受け取らせていただきました。

（M）

別院メールアドレス：sanjo-betsuin@wing.ocn.ne.jp